



素粒子物理学実験の現場から

第29回

大阪大学 花垣 和則

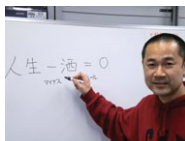
LHC実験が有名になったおかげか、最近はよく高校生を対象とした講義をやらせてもらっています。毎回熱心な参加者が多く、講演する側としても非常に楽しくやり甲斐を感じています。そういう講演会でよく訊かれる質問の一つに、どうしたらCERNで実験をやれますか、というものがあります。そこで今回は、その辺の事情についてお話しようと思います。

私たちのグループでATLAS実験をやっている学生は、博士課程が3人、修士課程が5人、合計で8人です。スタッフは私に加えて博士研究員が2人。総勢で11人の研究グループです。このうち、博士課程の学生3人と研究員の1人がCERNに常駐、実験の推進力となっています。ですから、CERNで実験をやりたければ、CERNで実験をやっている研究グループを探し、その研究グループの大学院試験に合格すればよいということになります。

ただし、グループ探しで気をつけなければならないのは、名目上実験に参画しているだけなのか、それとも実際に実験を推進しているのか、ということです。というのも、悲しいかな大学の研究経費だけでは研究活動はほぼ不可能です。一人の学生をCERNに常駐させることすらできません。私たちのグループでは、私が獲得する競争的外部資金に100%頼って研究活動をしていて、博士研究員の雇用経費もそれで賄っています。ですから、研究費用を持って本当に実験をやっているグループを選ばないと、実際の活動は難しくなってしまいます。

では博士課程を修了した後、研究者として研究を続けるにはどうしたらよいかというと、大学あるいは研究所に雇ってもらわなければなりません。ポストが空くと人事公募案内が流れますので、それに応募、めでたく採用されるとプロフェッショナルな研究者としての道が拓けます。

ですが、研究者を目指している人よりもポストのほうが少ないので、博士課程を終了した人が全員研究者になるわけではなく、一般企業などに就職する人も少なくはありません。ここで強調したいのは、世間で言われる程、博士課程修了者が就職難ということはありません。ポストクワ問題と称して現実よりも悪い印象を若者に植え付けるのはやめて欲しいと常々思っています。



著者紹介 花垣 和則(はながき かずのり)

大阪大学大学院理学研究科 准教授

CERNでLHC実験に参加